

目標		目標を達成するための取組		調査方法	達成状況・分析		評価・次年度に向けた課題や取組 ※評価: 目標達成(100%以上)をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした	備考
<b>【基本目標1-1】 鉄道の維持・活性化</b>		現在値	目標					
北勢線の利用者数(乗車人員)	2,551,724人	現状以上に増加	【事業1-1-1 北勢線の利用促進】 ・北勢線の利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指します。 ・北勢線事業運営協議会と連携した取り組みを実施します。 ・町内で行われるイベントなどに積極的に参加し、北勢線や三岐線を身近に感じてもらう取り組みを実施します。	運営業者への聞き取り	1,923,377人 (R3.4~R4.3)	・令和3年5~6月、8~9月は、三重県に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が適用されたことに伴う外出制限などにより、前年度と比較し利用者が大幅に減少。また、リモートワーク、リモート学習などの普及により通学・通勤利用は減少したものの、定期外の利用者は前年度より増加。 ・北勢線、三岐線に対する支援を実施。	C	・次年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかった北勢線の利用促進事業について、北勢線沿線市町や北勢線事業運営協議会と連携し取り組む。また、オレンジバスの利用促進事業も合わせて実施し、オレンジバス、鉄道、相互利用の促進を図る。 ・次年度も引き続き、北勢線、三岐線に対する支援を実施。
鉄道(北勢線、三岐線)を利用している町民の割合	17.3%	現状以上に増加	【事業1-1-2 北勢線の維持】 ・北勢線沿線市町である桑名市、いなべ市と協力し北勢線の維持に必要な支援を実施します。 【事業1-1-3 三岐線の維持】 ・三岐線沿線市町である四日市市、いなべ市と協力し三岐線の維持に必要な支援を実施します。	—	—	—	—	まちづくりアンケート(令和7年度実施予定)で集計
<b>【基本目標1-2】 バス、タクシーの維持・活性化</b>		現在値	目標					
路線バスの年間輸送量(桑名阿下喜線)	38.0人/日	現状以上に増加	【事業1-2-1 路線バスの利用促進】 ・路線バスの利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指します。 ・交通事業者が取り組んでいる施策を住民などに情報提供します。	運営業者への聞き取り	35.3人/日 (R2.10~R3.9)	【桑名阿下喜線】東員町には大きな総合病院や高校がないことから、隣接市町への通院、沿線に立地する高校への通学に必要な不可欠な路線ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度(51.6人/日)と比較し、令和2、3年度は大幅に利用者が減少。(R2.38.0人/日、R3.35.3人/日) ・【イオンモール東員線】現状値である31.3人/日(R1.10~R2.9)から大幅に増となり、コロナ禍前の水準(63.1人/日 H30.10~R1.9)に戻りつつある。 ・路線バスの時刻表やパンフレットなどを役場窓口で配布	B	・次年度も引き続き、広域移動を意識した公共交通ネットワークの構築に向け、オレンジバスと鉄道、路線バスとの運行ダイヤの調整を行うなど、乗継の利便性向上を図る。 ・今後、オレンジバスからの乗継割引など、バスの相互利用を促進する取り組みを検討。
路線バスの年間輸送量(イオンモール東員線)	31.3人/日	現状以上に増加		運営業者への聞き取り	50.4人/日 (R2.10~R3.9)		A	
タクシー助成利用者数	418枚	現状以上に増加	【事業1-2-2 タクシーの利用促進】 ・障がい者のタクシー利用助成など、交通弱者がより利用しやすいタクシーサービスを提供することにより、維持、活性化を目指します。	令和3年度の実績(地域福祉課)	297枚 (R3.4~R4.3)	・新型コロナウイルスに伴う外出の自粛により、利用者が少なかったと考えられる。	C	・次年度も引き続き、障がい者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、タクシー利用助成を継続する。
<b>【基本目標1-3】 持続可能な仕組みの構築</b>		現在値	目標					
オレンジバスの収支率	13.7%	15%	【事業1-3-1 オレンジバス運営体系の改定】 ・オレンジバスの収支率は約14%しかなく、国からの補助金などで運行経費の約71%、残りの約15%は町費です。今後、運行経費増が予想されることから、運賃収入増を図るための運営体系見直しを実施します。 ・割引制度の導入などにより、町民の費用負担が過度に重くならないよう考慮して実施します。	令和3年度の実績(政策課)	14.3% (R3.4~R4.3)	・令和3年4月からオレンジバスの継続的な運行を維持するため、運賃改定を実施。 ・バスの運行委託について、令和2年4月に南北線の2台、令和3年4月に東部線の1台の車両更新を含めた内容で新しく契約を締結したことに伴い、町オレンジバス運行費用負担額は約1.4倍に増加、同10年間は同水準の費用負担となる。 ・生活交通を考える会を年2回開催。(令和3年度)	B	・大人運賃を100円から200円に改定するだけでなく、高齢者や子ども達の移動支援施策(おでかけ元氣バス事業、小人運賃(100円)の新設)に取り組んだことを評価。 ・次年度も引き続き、生活交通を考える会を開催。
町のオレンジバス運行費用負担額	9,600千円	現状以下に削減	【事業1-3-2 生活交通を考える会の継続】 ・公共交通に係る各種事業の提案や実施を行うために、年数回開催している「東員町生活交通を考える会」を継続します。	令和3年度の実績(政策課)	14,109千円 (R3.4~R4.3)		C	同10年間は同水準の費用負担となることを踏まえ、目標値の見直しが必要
<b>【基本目標2-1】 交通結節点の利便性向上</b>		現在値	目標					
町内鉄道駅の乗車人員(東員駅)	184,604人	現状以上に増加	【事業2-1-1 オレンジバスと鉄道とのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、鉄道駅における乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運営業者への聞き取り	140,466人 (R3.4~R4.3)	・北勢線のダイヤとの調整のため、令和3年4月からオレンジバス(南北急行線)のダイヤ改正を実施	C	・次年度も引き続き、広域移動を意識した公共交通ネットワークの構築に向け、オレンジバスと鉄道、路線バスとの運行ダイヤの調整を行うなど、乗継の利便性向上を図る。
町内鉄道駅の乗車人員(六太駅)	126,968人	現状以上に増加	【事業2-1-2 オレンジバスと路線バスとのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、路線バスにおける乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運営業者への聞き取り	101,708人 (R3.4~R4.3)	・各鉄道駅の乗車人員の令和3年度の実績は、現状値(令和元年度実績)の約2割減となった。 ・リモートワーク、リモート学習などの普及により通学・通勤利用は減少したものの、定期外の利用者は前年度より増加。	B	
町内鉄道駅の乗車人員(北勢中央公園口駅)	104,337人	現状以上に増加		運営業者への聞き取り	80,616人 (R3.4~R4.3)		C	
<b>【基本目標3-1】 オレンジバス再編</b>		現在値	目標					
オレンジバス乗車人員	83,844人	現状以上に増加	【事業3-1-1 オレンジバスの再編】 ・オレンジバスの行き先がわかりにくいという声や交通空白地に対応するために、生活交通を考える会の議題としてわかりやすいルートを検討します。 ・昼便については、多くの居住地、多様な施設を巡回するルートとなっているため、南北線と東部線の役割分担を明確にした上で、利用者の行き先を考慮し、利用の少ない区間は廃止にするなど、利便性の高いルートに見直します。 ・バス利用者乗降データを活用し、適宜利用者ニーズを把握します。 ・ルートの見直しに合わせて、鉄道、路線バスとの接続を調整し、ネットワーク全体としての利便性を確保します。	運営事業者による集計	80,092人 (R2.10~R3.9)	・乗車人員について、現状値(R元.10~R2.9)と比較し、3,752人の減少となった。朝夕便の減少は、新型コロナウイルス感染症によるリモートワーク、リモート学習の普及による通学・通勤利用の減少によるものと考えられ、また昼便の利用は、買物や通院などの日常生活に不可欠な移動のため、新型コロナウイルス感染症及び運賃改定による影響は少なかったと考えられる。	B	・次年度には、利用者の行き先を考慮した、利便性の高いルートへの見直しを検討。
オレンジバスを利用している町民の割合	6.5%	現状以上に増加		—	—	—	—	まちづくりアンケート(令和7年度実施予定)で集計

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組 ※評価: 目標達成(100%以上)をA、目標値の80%以上達成をB、それ以外をCとした	備考
【基本目標3-2】 新たな移動形態の研究・実現推進	現在値	目標					
新たな移動手段の取り組み事業数	0事業	1事業	【事業3-2-1 新たな移動手段などの取り組みを推進】 ・人口減少や急速な高齢化が進む東員町の地域特性に合った運行形態を研究します。 ・交通空白地帯など地域が抱える課題について、グリーンズローモビリティの活用など、関係機関や住民との協働による方法を研究し、実現に向けて推進します。 ・国や県と連携し、自動運転などの新しい技術や移動手段に取り組みます。 ・中上地区の「外出サポート活動」(毎月15日に中上地区からイオンモール東員までワンボックスカーで買い物配達)などのように、地域と町が協働して取り組みます。	期間中の取組実績	0事業 (R2.10～R3.9)	C	・今後、デマンド交通を導入している市町への視察研修などにより、東員町の地域特性に合った移動手段について検討する。
【基本目標4-1】 外出支援	現在値	目標					
おでかけ元氣バス事業の利用者数	—	年18,000人(延べ)	【事業4-1-1 おでかけ元氣バス事業の実施】 ・町内在住の75歳以上の高齢者及び65歳以上75歳未満で運転免許証を返納した方を対象に、オレンジバスの運賃半額とする「おでかけ元氣バス」を配布します。 【事業4-1-2 子ども達の移動支援】 ・オレンジバス運賃について未就学児の無料を継続します。 ・オレンジバス運賃について小学生運賃を新設します。	運行事業者による集計	16,656人 (R3.4～R4.3)	B	・75歳以上の方に加え、65歳以上75歳未満で運転免許を返納した方も対象としたことを評価。 ・次年度も引き続き、小人運賃(100円)、未就学児の運賃無料を実施。 ・おでかけ元氣バス事業や、未就学児の運賃無料などの施策については、町民への周知が課題であると考え、今後、高齢者や子育て世代などに対し事業のPRを実施。
【基本目標4-2】 公共交通の魅力発信	現在値	目標					
運転免許証の返納者数	98人	現状以上に増加	【事業4-2-1 自動車運転免許自主返納の促進】 ・高齢者による自動車交通事故を削減するため、運転に不安がある方の自動車運転免許の自主返納を促し、公共交通利用を促進します。 ・三重県、民間事業者による取り組みを紹介するとともに、本町独自の取り組みについても検討、実施します。	いなべ警察署への聞き取り	119人 (R3.4～R4.3)	A	・令和3年4月からの運賃改定に合わせて、高齢者の外出、社会参加の促進及び健康増進を目的に、提示するとバス運賃が半額になるバス(おでかけ元氣バス)を配布。 ・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元氣バス事業を実施する。
利用促進活動の実施回数	0回	2回以上	【事業4-2-2 公共交通利用を促進する情報提供】 ・鉄道、路線バス、オレンジバスを掲載した総合的な公共交通マップやホームページの作成、経路検索など、公共交通利用を促進するための情報提供を実施します。また、公共交通は安全、安心そして便利であることをアピールし、利用促進を図ります。 ・マップなどについては、一般向け、高校生向けなどを作成します。町内事業所などへの配布などにより、町民のほか町内従業者などへの公共交通利用促進につなげます。 【事業4-2-3 公共交通利用促進イベントの実施】 ・北勢線のサタ電車とオレンジバスの乗車無料券の配布や町のイベントでのバス乗り方教室など、バス利用促進活動を継続して実施します。 ・その他のイベント開催時には、会場へのアクセスに公共交通利用を促すなど、各種イベントなどを契機に公共交通の利用促進を図っていきます。 【事業4-2-4 バスロケーションシステムの活用】 ・バスロケーションシステムを活用し、オレンジバスをより便利に利用できるよう情報提供を行います。 ・バスロケーションシステムと連動する乗降センサーを活用し利用者ニーズを詳細に把握し、交通施策に反映します。 【事業4-2-5 公共交通の「見える化」の推進】 ・検索サービス、地図アプリへの掲載など、公共交通が利用しやすいくなるよう公共交通の「見える化」を推進します。 【事業4-2-6 観光資源の活用】 ・町の観光資源である中部公園をおすすめスポットとして公共交通と連携した利用を広くPRします。 ・町陸上競技場をホームスタジアムとして活動するサッカーチームと連携するなど、観光と公共交通の関係の深い東員町の魅力を来町者に発信します。	期間中の取組実績	2回 (R2.10～R3.9)	A	・町発行の広報紙(広報とういんR3.4月号)にて、オレンジバスの運賃改定や新規事業として取り組むおでかけ元氣バス、またダイヤ改正について、特集記事(4P)を掲載、町内全戸に配布される広報紙を活用することで、広く情報提供を行うことができた。 ・ケーブルテレビで特集番組を放送(取材R3.9月、放送R3.10月)。オレンジバスの整備や運行前点検の様子、新型コロナウイルス対策を特集し、公共交通は安心安全な乗り物であることをPRした。 ・広報紙へ特集記事の掲載、ケーブルテレビでの特集番組を放送するなどし、新型コロナウイルス感染症対策をPRするとともに、オレンジバスの運賃改定や新規事業に関する情報をわかりやすく発信したことを評価。 ・次年度も引き続き、広報紙などを活用し、公共交通利用を促進する情報提供を行う。 ・次年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかった北勢線の利用促進事業と連携し、オレンジバスの利用促進事業を実施し、オレンジバス、鉄道、相互利用の促進を図る。 ・次年度に、利用者の行き先を考慮した、利便性の高いルートへの見直しを検討するにあたり、各路線やバス停の利用者の把握するため、乗降センサーの情報を積極的に活用する。 ・次年度も引き続き、公共交通の「見える化」を推進する。 ・新型コロナウイルス感染症及び運賃改定による利用控えへの対応が課題であると考え、今後、利用者回帰の施策として、バス停等に現在のバスの位置がリアルタイムで表示されるQRコードの設置など、利用者の利便性が向上する取り組みについて検討する。 ・国の補助事業を活用した利用促進の取り組みにおいて、行政、交通事業者、民間企業とともに事業を展開できたことを評価。 ・次年度も引き続き、交通事業者、民間企業と連携した取り組みを実施し、東員町へ訪れたい目的を創ることで、オレンジバス、鉄道、民間バスを含めた、公共交通全体の利用促進を図る。
【基本目標4-2】 公共交通の魅力発信	現在値	目標					
キャッシュレスや感染症対策など快適性を向上する取り組みの数	0回	1回以上	【事業4-3-1 キャッシュレスによる運賃受取の実施】 ・交通系ICカードやスマホ決済などのキャッシュレスによるオレンジバス運賃の決済方法について、北勢線の導入状況なども動向して実現可能性を検討し、導入に向けた取り組みを推進します。 【事業4-3-2 感染症対策の実施】 ・鉄道、バス、タクシーで実施している新型コロナ感染症対策(車内などの消毒、換気、マスク着用など)を継続し、安心・安全に利用できることをPRすることにより、乗り控えなどを抑制します。	期間中の取組実績	1回 (R2.10～R3.9)	A	・手指消毒用アルコールや、バスの感染症対策を記載した車体広告用マグネットシートをオレンジバスへ設置し、バスにおける感染症対策をPRした。バスにおける感染症対策のPRを行ったことで、利用者の不安解消に一定の効果があったと考え、 ・新型コロナウイルス感染症及び運賃改定による利用控えへの対応が課題であると考え、今後、利用者回帰の施策として、キャッシュレス決済の導入など、利用者の利便性が向上する取り組みについて検討する。